



L コマンド

この章のコマンドは、Cisco MDS 9000 ファミリのマルチレイヤディレクタおよびファブリック スイッチに対応しています。ここでは、コマンドモードに関係なく、すべてのコマンドがアルファベット順に記載されています。各コマンドの適切なモードを確認するには、「コマンドモード」を参照してください。詳細については、『*Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide*』を参照してください。

lifetime seconds

Internet Key Exchange (IKE; インターネット キー エクスチェンジ) プロトコル ポリシーのセキュリティ アソシエーション (SA) 継続時間を設定するには、IKE ポリシー コンフィギュレーション サブモードで **lifetime seconds** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

lifetime seconds *seconds*

no lifetime [*seconds seconds*]

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	継続時間を秒で指定します。有効範囲は 600 ~ 86400 です。
------------------	----------------	------------------------------------

デフォルト	86,400 秒
--------------	----------

コマンドモード	IKE ポリシー コンフィギュレーション サブモード
----------------	----------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**crypto ike enable** コマンドを使用して IKE プロトコルをイネーブルにする必要があります。

lifetime seconds コマンドは、デフォルト値を上書きします。

例 次に、IKE プロトコルの SA 継続時間を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# crypto ike domain ipsec
switch(config-ike-ipsec)# policy 1
switch(config-ike-ipsec-policy)# lifetime seconds 6000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	crypto ike domain ipsec	IKE コンフィギュレーション モードを開始します。
	crypto ike enable	IKE プロトコルをイネーブルにします。
	policy	IKE プロトコル ポリシーを設定します。
	show crypto ike domain ipsec	IPSec ドメインの IKE 情報を表示します。

line com1

補助用の COM 1 ポートを設定するには、**line com1** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
line com1 -->
  databits number |
  flowcontrol hardware |
  modem {in | init-string {default | user-input} | set-string user-input string} |
  parity {even | none | odd} |
  speed speed |
  stopbits {1 | 2}

line com1 -->
  no databits number |
  no flowcontrol hardware |
  no modem {in | init-string | set-string user-input} |
  no parity {even | none | odd} |
  no speed speed |
  no stopbits {1 | 2}
```

シンタックスの説明		
databits <i>number</i>		文字ごとのデータビット数を指定します。有効範囲は 5～8 です。
flowcontrol <i>hardware</i>		COM1 ポートのモデムフロー制御をイネーブルにします。
modem		モデムモードをイネーブルにします。
in		COM1 ポートのみをモデムに接続できるようにします。
init-string <i>default</i>		モデムに対するデフォルトの初期化文字列を記述します。
set-string <i>user-input string</i>		ユーザ指定の初期化文字列を対応するプロファイルに設定します。最大 80 文字まで可能です。
init-string <i>user-default</i>		モデムに対して規定の初期化文字列を記述します。
parity		端末パリティを設定します。
even		偶数パリティを設定します。
none		パリティなしを設定します。
odd		奇数パリティを設定します。
speed <i>speed</i>		送受信速度を設定します。有効値は 110～115,200 ボーです。
stopbits		非同期回線ストップビットを設定します。
1		1 ストップビットを設定します。
2		2 ストップビットを設定します。

デフォルト	
	9600 ボー
	8 データビット
	1 ストップビット
	パリティなし
	デフォルト初期化文字列
コマンドモード	コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.2(2)	このコマンドが導入されました。
	3.0(1)	Supervisor-2 モジュールのユーザ入力の初期化文字列を示す例が追加されました。

使用上のガイドライン

line com1 コマンドは、**config t** コマンド モードで使用可能です。**line com1** コンフィギュレーション コマンドは、**config-com1** サブモードで使用可能です。

コンソール ポートまたは COM1 ポートに接続している場合に、ここで指定している設定を実行できます。

デフォルトの初期化文字列を使用することを推奨します。必要なオプションがユーザ入力文字列に規定されていない場合、初期化文字列は処理されません。

文字列を初期化する前に、事前にユーザ入力文字列を設定する必要があります。

Supervisor-1 および Supervisor-2 モジュールのユーザ入力の初期化文字列の詳細については、『*Cisco SAN-OS MDS 9000 Family CLI Configuration Guide*』を参照してください。

例

次に、回線コンソールを設定してその端末回線用のオプションを設定する例を示します。

```
switch## config terminal
switch(config)#
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# databits 6
switch(config-com1)# parity even
switch(config-com1)# stopbits 1
```

次に、現在のモデムで機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# no modem in
```

次に、COM1 ポートのみがモデムに接続できるようにする（デフォルト）例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem in
```

次に、モデムに対して規定の初期化文字列を記述する例を示します。これがデフォルトです。

```
switch# config terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem init-string default
```

次に、Supervisor-1 モジュールのユーザ指定の初期化文字列を対応するプロファイルに割り当てる例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem set-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

The following example assigns the user-specified initialization string for a Supervisor-2 module to its corresponding profile.

```
switch# config terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem set-string user-input ATE0Q0V1&D0&C0S0=1
```

次に、設定された初期化文字列を削除する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# no modem set-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、モデムに対してユーザ指定初期化文字列を記述する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line com1
switch(config-com1)# modem init-string user-input
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	プライマリ端末回線を設定します。
line vty	仮想端末回線を設定します。
show line com1	COM1 情報を表示します。

line console

端末回線を設定するには、**line console** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

line console -->

databits *number* |
exec-timeout *minutes* |
modem {**in** | **init-string** | **set-string user-input**} |
parity {**even** | **none** | **odd**} |
speed *speed* |
stopbits {**1** | **2**}

line console -->

no databits *number* |
no exec-timeout *minutes* |
no modem {**in** | **init-string** {**default** | **user-input**} | **set-string user-input string**} |
no parity {**even** | **none** | **odd**} |
no speed *speed* |
no stopbits {**1** | **2**}

シンタックスの説明

databits <i>number</i>	文字ごとのデータビット数を指定します。有効範囲は 5 ~ 8 です。
exec-timeout <i>minutes</i>	実行タイムアウトを分で設定します。有効範囲は 0 ~ 525600 です。ディセーブルにするには、0 分に設定します。
modem	モデム モードをイネーブルにします。
in	COM1 ポートのみをモデムに接続できるようにします。
init-string default	モデムに対するデフォルトの初期化文字列を記述します。
set-string user-input string	ユーザ指定の初期化文字列を対応するプロファイルに設定します。最大 80 文字まで可能です。
init-string user-input	モデムに対して規定の初期化文字列を記述します。
parity	端末パリティを設定します。
even	偶数パリティを設定します。
none	パリティなしを設定します。
odd	奇数パリティを設定します。
speed <i>speed</i>	送受信速度を設定します。Supervisor-1 モジュールの有効値は、110 ~ 115,200 bps (110、150、300、600、1200、2400、4800、9600、19200、28800、38400、57600、115200) です。Supervisor-2 モジュールの有効値は、9600、19200、38400、および 115200 です。
stopbits	非同期回線ストップ ビットを設定します。
1	1 ストップ ビットを設定します。
2	2 ストップ ビットを設定します。

デフォルト

9600 ボー
 8 データビット
 1 ストップビット
 パリティなし
 デフォルト初期化文字列

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.2(2)	このコマンドが導入されました。
	3.0(1)	Supervisor-1 モジュールおよび Supervisor-2 モジュールの速度を指定することで、 speed オプションを変更しました。

使用上のガイドライン **line console** コマンドは、**config t** コマンドモードで使用可能です。**line console** コンフィギュレーションコマンドは、**config-console** サブモードで使用可能です。

speed オプションを設定する場合、必ず正確な値の 1 つを指定してください。

例 次に、回線コンソールを設定してその端末回線用のオプションを設定する例を示します。

```
switch## config terminal
switch(config)##
switch(config)# line console
switch(config-console)# databits 60
switch(config-console)# exec-timeout 60
switch(config-console)# flowcontrol software
switch(config-console)# parity even
switch(config-console)# stopbits 1
```

次に、現在のモデムで機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem in
```

次に、COM1 ポートのみがモデムに接続できるようにする（デフォルト）例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem in
```

次に、モデムに対して規定の初期化文字列を記述する例を示します。これがデフォルトです。

```
switch# config terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string default
```

次に、ユーザ指定の初期化文字列を対応するプロファイルに割り当てる例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem set-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、設定された初期化文字列を削除する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem set-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、モデムに対してユーザ指定初期化文字列を記述する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string user-input
```

■ line vty

関連コマンド	コマンド	説明
	line vty	仮想端末回線を設定します。
	line com1	補助 COM 1 ポートを設定します。
	show line console	コンソール情報を表示します。

line vty

仮想端末回線を設定するには、**line vty** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
line vty -->
    exec-timeout minutes |
    session-limit number
```

```
line vty -->
    no exec-timeout |
    no session-limit number
```

シンタックスの説明	exec-timeout <i>minutes</i>	説明
		タイムアウトを分で設定します。有効範囲は 0 ～ 525600 です。ディセーブルにするには、0 分に設定します。
	session-limit <i>number</i>	VSH セッション数を設定します。有効範囲は 1 ～ 64 です。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **line vty** コマンドは **config t** コマンドモードで使用できます。**line vty** コンフィギュレーションコマンドは config-line サブモードで使用できます。

例 次に、仮想端末回線を設定してその回線用のタイムアウト値を設定する例を示します。

```
switch## config terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# exec-timeout 60
```

関連コマンド	コマンド	説明
	line console	プライマリ端末回線を設定します。
	line com1	補助 COM 1 ポートを設定します。

link (SDV virtual device configuration submode)

仮想デバイスをリアルデバイスにリンクするには、SDV 仮想デバイス コンフィギュレーション サブモードで **link** コマンドを使用します。リンクを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
link {device-alias device-name | pwwn pwwn-name}
```

```
no link {device-alias device-name | pwwn pwwn-name}
```

シンタックスの説明	device-alias device-name	仮想デバイスをデバイスエイリアスにリンクします。
	pwwn pwwn-name	仮想デバイスを pWWN にリンクします。フォーマットは hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh で、h は 16 進数値です。

デフォルト なし

コマンドモード SDV 仮想デバイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.1(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、仮想デバイスをデバイスエイリアスにリンクする例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# sdv virtual-device name sqal vsan 1
switch(config-sdv-virt-dev)# link device-alias sqa3
```

次に、仮想デバイスを pWWN にリンクする例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# sdv virtual-device name sqal vsan 1
switch(config-sdv-virt-dev)# link pwwn 21:00:00:04:cf:cf:45:40
```

関連コマンド	コマンド	説明
	sdv enable	SAN デバイス バーチャライゼーションをイネーブルまたはディセーブルにします。
	show sdv statistics	SAN デバイス バーチャライゼーションの統計情報を表示します。

link-state-trap

インターフェイスで SNMP リンク ステート トラップをイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション サブモードで **link-state-trap** コマンドを使用します。SNMP リンク ステート トラップをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

link-state-trap

no link-state-trap

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト イネーブル

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.1(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、インターフェイス bay2 で SNMP リンク ステート トラップをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# interface bay 2
switch(config-if)# link-state-trap
```

次に、インターフェイス bay2 で SNMP リンク ステート トラップをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# interface bay 2
switch(config-if)# no link-state-trap
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	インターフェイス情報を表示します。

link-state-trap (SME)

インターフェイスで SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) リンク ステート トラップをイネーブルにするには、**link-state-trap** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

link-state-trap

no link-state-trap

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.2(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、SME インターフェイスでリンク ステート トラップをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface sme 4/1
switch(config-if)# link-state-trap
```

次に、SME インターフェイスでリンク ステート トラップをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface sme 4/1
switch(config-if)# no link-state-trap
```

load-balancing

すべてのターゲットまたは特定のターゲットのクラスタのロード バランシングの再実行をイネーブルにするには、**load-balancing** コマンドを使用します。このコマンドをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
load-balancing {enable | target wwn}
```

```
no load-balancing {enable | target wwn}
```

シンタックスの説明	enable	target wwn
	クラスタのロード バランシングをイネーブルにします。	ターゲットのポートの World Wide Name (WWN) を指定します。

デフォルト なし

コマンドモード Cisco SME クラスタ コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.3(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン すべての、または指定したターゲット ポートのロード バランシングの再実行は、Cisco SME 管理者によって行われます。この処理では、まずすべてのターゲットが Cisco SME インターフェイスからアンバインドされます。その後、ターゲットは、ロード バランシングのアルゴリズムに基づいて 1 つずつ関連付けられます。

バックエンドでそれ以前のロード バランシングがエラーになったためにターゲットが接続されていない場合、ロード バランシングの処理はトリガーされることがあります。

例 次に Cisco SME でロード バランシングを再実行する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# sme cluster c1
switch(config-sme-cl)# load-balancing enable
switch(config-sme-cl-node)#
```

次に、ロード バランシングのポリシーに基づいて、Cisco SME インターフェイスにホストを追加する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# sme cluster c1
switch(config-sme-cl)# load-balancing 17:11:34:44:44:12:14:10
switch(config-sme-cl-node)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show sme cluster	Cisco SME 情報を表示します。

logging abort

進行中のロギング Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、コンフィギュレーションモードで **logging abort** コマンドを使用します。

logging abort

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、進行中のロギング CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# logging abort
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング情報を表示します。

logging commit

ファブリック内で進行中のロギング Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションに関する未決定コンフィギュレーションを適用するには、コンフィギュレーション モードで **logging commit** コマンドを使用します。

logging commit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、アクティブ ロギング コンフィギュレーションへの変更を確定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# logging commit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング情報を表示します。

logging console

コンソール ロギングを設定するには、**logging console** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging console [severity-level]
```

```
no logging console [severity-level]
```

シンタックスの説明	<i>severity-level</i>	記録されるメッセージの最大重大度を指定します。範囲は 0～7 で、0 は緊急、1 はアラート、2 はクリティカル、3 はエラー、4 は警告、5 は通知、6 は情報、7 はデバッグです。
------------------	-----------------------	--

デフォルト	ディセーブル デフォルトの重大度は 2 です。
--------------	----------------------------

コマンドモード	コンフィギュレーション モード
----------------	-----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	スイッチは、設定された重大度またはそれ以上のメッセージを記録します。
-------------------	------------------------------------

例	次に、コンソール ロギングを出荷時の設定である重大度レベル 2（重大）に戻す例を示します。重大度レベル 2 以上のロギング メッセージがコンソールに表示されます。
----------	---

```
switch# config terminal
switch(config)# logging console 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング設定情報を表示します。

logging distribute

ロギングの Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**logging distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

logging distribute

no logging distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**logging commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例 次に、ロギング コンフィギュレーションの変更を配信する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# logging distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging commit	ロギング コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
	show logging	ロギング情報を表示します。

logging level

メッセージ ロギングのファシリティを変更するには、**logging level** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

logging level *facility-name severity-level*

no logging level *facility-name severity-level*

シンタックスの説明	<i>facility-name</i>	必要なファシリティ名 (たとえば、 acl 、 ivr 、 port 等) を指定します。
	<i>severity-level</i>	記録されるメッセージの最大重大度を指定します。範囲は 0 ~ 7 で、0 は緊急、1 はアラート、2 はクリティカル、3 はエラー、4 は警告、5 は通知、6 は情報、7 はデバッグです。

デフォルト デイセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン スイッチは、設定された重大度またはそれ以上のメッセージを記録します。

例 カーネル ファシリティの Telnet または Secure Shell (SSH; セキュア シェル) ロギングをレベル 4 (警告) に設定します。これにより、重大度レベル 4 以上のロギング メッセージが表示されます。

```
switch# config terminal
switch(config)# logging level kernel 4
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング設定情報を表示します。

logging logfile

ログファイルのメッセージ ロギングを設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

logging logfile filename severity-level [size filesize]

no logging logfile

シンタックスの説明	filename	ログのファイル名を指定します。最大 80 文字まで可能です。
	severity-level	記録されるメッセージの最大重大度を指定します。範囲は 0 ~ 7 で、0 は緊急、1 はアラート、2 はクリティカル、3 はエラー、4 は警告、5 は通知、6 は情報、7 はデバッグです。
	size filesize	ログ ファイルのサイズを指定します。有効範囲は 4096 ~ 4194304 バイトです。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン スイッチは、設定された重大度またはそれ以上のメッセージを記録します。

例 次に、重大度レベル 3（エラー）以上のエラーやイベントのロギング情報を ManagerLogFile という名前のファイルに記録するように設定する例を示します。この制限を設定することで、ファイルサイズが 3000000 バイトに制限されます。

```
switch# config terminal
switch(config)# logging logfile ManagerLogFile 3 size 3000000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング設定情報を表示します。

logging module

ラインカードのメッセージ ロギングを設定するには、**logging module** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

logging module [*severity-level*]

no logging module [*severity-level*]

シンタックスの説明	<i>severity-level</i>	記録されるメッセージの最大重大度を指定します。範囲は 0 ~ 7 で、0 は緊急、1 はアラート、2 はクリティカル、3 はエラー、4 は警告、5 は通知、6 は情報、7 はデバッグです。
------------------	-----------------------	--

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、レベル 7 のモジュールのメッセージ ロギングを設定する例を示します。

```
switch## config terminal
switch(config)# logging module 7
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング設定情報を表示します。

logging monitor

モニタのメッセージロギングを設定するには、**logging monitor** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

logging monitor severity level

シンタックスの説明	logging monitor	メッセージロギングを設定します。
	<i>severity level</i>	0～7。0—緊急、1—アラート、2—クリティカル、3—エラー、4—警告、5—通知、6—情報、7—デバッグ

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、端末回線（モニタ）のメッセージロギングをレベル 2 に設定する例を示します。

```
switch## config terminal
switch(config)# logging monitor 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング設定情報を表示します。

logging server

リモート サーバ用のメッセージ ロギングを設定するには、**logging server** コマンドを使用します。

```
logging server [hostname | ip address severity_level | facility auth | authpriv | cron | daemon | ftp |
kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog |
user | uucp]
```

シンタックスの説明

logging server	リモートサーバ用のメッセージ ロギングを設定します。
<i>hostname</i>	リモートサーバ用のホスト名を設定します。
<i>ip address</i>	リモートサーバの IP アドレスを入力します。
<i>severity_level</i>	メッセージの重大度レベルを入力します。0 : 緊急、1 : アラート、2 : クリティカル、3 : エラー、4 : 警告、5 : 通知、6 : 情報、7 : デバッグ
facility	サーバに転送する際に使用するファシリティ
auth	auth ファシリティを使用します。
authpriv	authpriv ファシリティを使用します。
cron	Cron/at ファシリティを使用します。
daemon	デーモン ファシリティを使用します。
ftp	ファイル転送ファシリティを使用します。
kernel	カーネル ファシリティを使用します。
local0	local0 ファシリティを使用します。
local1	local1 ファシリティを使用します。
local2	local2 ファシリティを使用します。
local3	local3 ファシリティを使用します。
local4	local4 ファシリティを使用します。
local5	local5 ファシリティを使用します。
local6	local6 ファシリティを使用します。
local7	local7 ファシリティを使用します。
lpr	lpr ファシリティを使用します。
mail	メール ファシリティを使用します。
news	USENET ニュース ファシリティを使用します。
syslog	syslog ファシリティを使用します。
user	ユーザ ファシリティを使用します。
uucp	UNIX 間コピー システム ファシリティを使用します。

デフォルト

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

■ logging timestamp

例 指定されたリモート サーバに対してレベル 7 メッセージのメッセージ ロギングをイネーブルにします。

```
switch## config terminal
switch(config)# logging sever sanjose 7
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング設定情報を表示します。

logging timestamp

メッセージ ロギング タイムスタンプの時間の増分を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。以前に実行したコマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}
```

```
no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}
```

シンタックスの説明

microseconds	ロギング タイムスタンプをマイクロ秒で設定します。
milliseconds	ロギング タイムスタンプをミリ秒で設定します。
seconds	ロギング タイムスタンプを秒で設定します。

デフォルト

2

コマンドモード

コンフィギュレーションモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、ロギング タイムスタンプをミリ秒で設定する例を示します。

```
switch## config terminal
switch(config)# logging timestamp milliseconds
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング設定情報を表示します。